



▲信州新町の各地区で、御柱祭が賑々しく執り行われた

JA長野厚生連理念

JA長野厚生連は、JA綱領のもとに医療活動を通じ、
組合員・地域住民のいのちと生きがいのある暮らしを守り、
健康で豊かな地域づくりに貢献します。

<行動目標>

1. 私たちは、医療に携わる者として、常に人間性を磨くとともに知識と技術の修得につとめます。
2. 私たちは、地域のニーズを尊重し、親切で良質な保健・福祉サービスの提供につとめます。
3. 私たちは、組合員・地域住民の主体的な参加のもとに、労働組合とともに民主的な運営と健全な経営につとめます。
4. 私たちは、農村医学と農村医療の確立と発展につとめ、農業と農村を守ります。
5. 私たちは、教育・文化・地域活動を積極的に推進し、地域の信頼を高め連携強化につとめます。



でお悩みの方は以外に多いものです

皆様の中には、最近、ものが見えにくくなったとか、目が疲れやすい、充血し易いなど、目に関する様々なトラブルでお悩みの方がおいてかと思えます。

当院の眼科には、そういった患者様の症状から、白内障、緑内障などさまざまな眼の疾患の診断、検査、治療のために最新の機器を設置しています。

今回はその中の一部の機器について紹介いたします。



超音波白内障手術装置

これは昨年4月に入ったばかりの装置で、白内障の手術を眼の痛みもなく約10～15分位で行うことができます。



自動視野計

緑内障の診断は視野を測ることが必要となります。この装置により約15分で緑内障の診断をすることができます。



眼科疾患診断装置

眼の疾患というのは患者様には分かりにくいものが多いです。この装置は眼の状態を写真に撮ることができるので、医師が診断をすることができ、患者様に眼の疾患について分かりやすく説明することができます。またこの装置は眼の状態の時間的経過も知ることができます。

レーザー治療装置

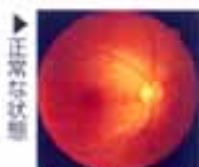
1)アルゴンレーザー

眼底出血や糖尿病網膜症の治療に有効です。

2)ヤグレーザー

白内障手術後の視力低下の原因のひとつの後発白内障という疾患の治療に有効です。

このように疾患に応じてレーザー治療が可能です。



無散瞳カメラ

眼科に診察に来るとまぶしくて散瞳して困った経験のある人が多くいると思います。この装置は無散瞳の状態でも眼底写真を撮ることができます。この眼底写真を見ることにより、病気があるかどうかを振り分けることが可能です。

この他にも当院の眼科には幾つかの最新の機器が設置されています。眼の疾患には複雑で分かりにくいものが多いです。これらの機器を用いることにより専門の医師が診断、治療をすることが可能です。最近眼が見えにくくてお悩みの方、眼の疾患でお悩みの方、一度当院の眼科に相談してみてもいいかもしれません。

新任医師紹介

山本 浩二 (外科医長)

今年1月より外科で働いております。

出身：富山県下新町郡朝日町という所(徳州新町より田舎)です。

趣味：これといったものはありませんが、演劇や映画を見たりするのが好きです。

新町病院に来て他の先生方をはじめ職員の方々に助けていただき大変感謝しております。

今後もよろしくお願いいたします。



MSW(医療ソーシャルワーカー)の相談室だより

昨年5月、患者さんの入退院に関するご心配や、各種制度の利用方法などに関するご質問についてお応えできる、専門的で総合的な窓口を、ということで当院に医療相談室が開設されました。1年間、医療相談員として活動してまいりましたが、相談室の認知度が低いせいか、相談件数はあまり多くはありません。そこで、医療相談室の活用方法を知っていただき、今後のご利用につなげていただけたらと思います、この相談室にどのような相談が寄せられたかをまとめてみました。



- ①患者さんの退院に向けての社会復帰のお手伝い
 - ・自宅で療養(介護)していくにはどうしたらいいか
 - ・病気のため就職してしまい、今後の生活が心配。社会復帰して働きたい
 - ・施設を利用する方法、福祉用具の利用方法
- ②社会福祉制度や保険制度の利用に関するご相談
 - ・介護保険制度、身体障害者手帳、障害年金、生活保護、高額医療費
 - ・各種減免制度の利用方法、障害者向け各種制度、その他医療・福祉に関する事
- ③入院や、他院からの転院をご希望される患者さんのご相談や入院調整
 - ・療養型病棟への入院希望

以上がMSWの主な得意分野ですが、他にどのようなご相談でもお受けしております。MSWではお応え出来ないようなご相談には、院内の担当の部署、あるいは行政などにもご紹介させていただきます。皆さんのご利用をお待ちしております。

MSWへの相談料はもちろん無料です。

健康メモ

腰椎椎間板ヘルニアについて 整形外科 藤澤多佳子医師

腰痛は「ヒトが立って歩くように進化したために起こった宿命的な症状である」と言われており、「永遠の課題」ともいわれているように、非常に多くの原因疾患があり、原因が解明されていないものもあります。中でも、日頃よく耳にする腰椎椎間板ヘルニアについてお話しします。

背骨は椎骨と呼ばれる骨と椎間板と呼ばれる軟骨が交互につきなが合わされてできています。椎間板にはクッションの役目があります。内外二重構造になっており、中心部にある髄核と呼ばれるゲル状の軟骨と、その周囲を取り囲んで線維輪と呼ばれる軟骨とでできています。髄核に例えると「あんこ」が髄核で「皮」が線維輪、「あんこ」が「皮」を突き破って飛び出し、神経を刺激して腰痛やお尻の痛み、足に放散する坐骨神経痛といわれる痛み、しびれ、脱力感などを生じた状態を腰椎椎間板ヘルニアといいます。下肢の痛みを伴わない腰痛だけの場合には椎間板ヘルニアというよりも他の病気によることの方が多いです。

腰椎椎間板ヘルニアは全人口の1%~2%に発生するといわれ、通常は30~50歳の間に最も多くみられます。

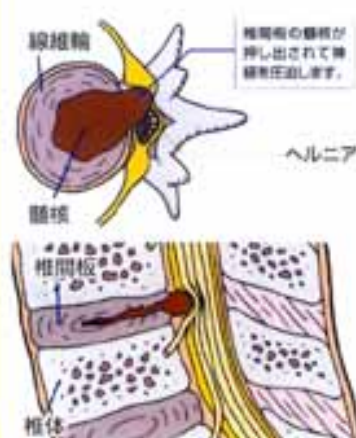
治療法には、手術をしない方法（保存療法）と手術療法と二通りに分かれますが、急性の腰椎椎間板ヘルニアの80~90%は手術をしなくて

も治り、最終的な治り方にはあまり差がないことがわかっています。

通常はまず、保存療法から始めます。まず、安静を保ち、消炎鎮痛剤や筋弛緩剤などの内服をし、症状によつては牽引、温熱療法などの理学療法を行い、コルセットを装着します。それでも効果がなければ神経ブロックを行います。

これらの保存療法を行っても、日常生活に支障を来たすほどの痛みが残れば手術をお勧めします。ただ、麻痺を認める例や耐え難い痛みを認めるには保存療法よりまず手術を考慮します。しかし、手術には腰痛を軽減する効果は少ないので下肢の痛みがなく、腰痛だけの方にはお勧めしません。

非常に稀ですが、尿閉（自分で尿が出せなくなる状態）を来たすことがあり、このような状態になったら緊急手術が必要です。速やかに近医を受診しましょう。



症例検討会を開催

新町病院では、昨年末と今年四月に症例検討会を開催いたしました。

昨年末には、通常の症例検討会を行ったのち、三月末で小川村診療所長を退任された池田忠先生の一（在宅医療について）の講演会を行い、今後、合併等によりどのような診療体制を構築していくのかを、熱く語っていただきました。池田先生におかれましては、地域医療の先頭に立ち、熱心に取組んでこられました。参加者一同、池田先生

の今後のご活躍をお祈りするところで。

また、四月には新たに小川村診療所長に就任された石田正夫先生をお迎えし、中条村の大成診療所長、大岡村の内場診療所長、八坂村の戸部診療所長をお招きし、近隣町村の先生方が揃って症例検討会を開催することができました。

今後もさらに診療所スタッフと病院とが協力し連携を取りながら地域医療に取組んでまいります。

「ひなまつり」を開催

三月二十五日に介護療養病棟で、恒例となりました「ひなまつり」を開催しました。

職員有志で構成する、フ



ワワー楽団によるマンドリン演奏で幕が開くと、きれいな音色が響き渡り、手拍子や歌詞を口ずさむ患者様の姿がみられました。

また、通所リハビリ（テイクア）利用者の皆様も一緒に参加され、ハイモニカ演奏や歌を披露していただき、楽しい雰囲気さらに盛り上げていただきました。

レクリエーションでは、参加者全員で「宅急便ゲーム」を行いました。それぞれのチームで隣の人の荷物をリレーしていくもので、とてもチームワークが良く、荷物を受け渡すことができ、



荷物だけでなく心と心のリレーもできたようです。その後、病棟スタッフが作成した、お内裏様とお雛様の、上半身等身大のぬき型にベアで納まり、記念撮影を行いました。

最後に一番のお楽しみ、栄養科職員の桜の花を模った手作りおやつを全員でいただき、美味しさとのしさを味わったひなまつりとなりました。

長期にわたり入院されている患者様に、季節の行事に触れ生活感のあるひとときを過ごしていただけるよう今後も取組んでまいります。

「院長就任にあたって」

院長 小瀬川 和雄



J A長野厚
生連新町病院
の管理者とし
て、平成十六
年四月一日、
院長に就任い
たしました。

新町病院は、昭和三十七年七月十日に、地元の町村及び農協の熱い誘致運動があり、そして出資していただき、長野県下七番目にできた厚生連病院です。発足当時は病床数五十四床、職員数二十一名でしたが、現在は病床数百四十床のうち、療養型病床四十床、職員数約百四十名となっています。長野県へき地中核病院に指定され、西岸峡地区の唯一の公的病院として、「保健・医療・福祉活動」に取り組んでおります。

私は昭和五十年、岩手医大を卒業と同時に信州大学第一内科に入局しました。昭和五十四年七月に前院長の藤本先生のお誘いにより、新町病院に赴任しました。今年七月で新町病院に来てから二十五年となりです。

新町病院長として最優先課題は医師確保であると思っています。平成十六年四月より医師臨床研修制度と、信大の独立行政法人化が施行されました。今までは大学医学部を卒業すると医師国家試験を

受け、大学の医局に入局していましたが、これから二年間は大学医局への入局者の新卒者は0人ということになります。大学医局からの医師派遣が難しくなります。幸いなことに現時点では当院においては、派遣医師の医局への引き上げは今のところありません。独立行政法人化による当院への影響は、パート医師の一日の勤務時間の制限が発生してきました。医師の定数が基準に満たないと、診療報酬減ということにもなりかねません。

現在の急性期病棟が二つ、慢性期病棟が一つの体制を維持したいと考えています。平均在院日数の短縮化などにて、将来どうしても経営的に無理が生ずれば、二病棟慢性化も考えねばなりません。

施設の充実も必要です。管理棟、ポイラー棟が老朽化してきています。病院の経営とも関係しますが、近い将来に改築が必要になると思います。

医療スタッフの充実、施設の充実をし、保健・医療・福祉において地域の皆様のために尽くさねばなりません。病院の内容は時代とともに変化しておりますが、地域の人の病院であることを忘れずに取り組んでまいりたいと思います。浅学非才の身ではありますが、皆様のご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。



事務長 就任のご挨拶



4月の人事異動で、先輩諸氏が発展させてこられた新町病院の事務長職に任命されその職務の重大さを痛感しています。

新町病院は地域に暮らす方々の熱い思いが結実し昭和37年開設され、以来40年間にわたり「地域に信頼され親しまれる病院」として発展して来ました。

しかし現在は急速に進む医療制度改革の大波をうけ、保健・医療・福祉を包括した地域医療を提供する厚生連病院として、その役割を十分に果たすことが厳しい状況になっています。

今後も新町病院が、地域の方々が安心して暮らせる生活の基盤として、また、信頼され親しまれる病院として期待に応えられるよう小瀬川院長のもとで、微力ながら全力をつくす所存でございます。前任の北村事務長同様に皆様のご支援ご協力をお願いします。

宮崎 正新

「院長退任にあたって」



新緑の候、皆様には益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

三月末日をもちまして、新町病院院長を退任致しました。顧みますと、私が新町病院に着任したのは昭和四十八年、当時の常勤医は外科医一名、内科医一名の二人だけだったため最初から副院長ということになってしまいました。以後今日迄地域住民の皆様とのお力添えを頂き、病院も数回に及ぶ増改築を行うことが出来ました。又お陰様で地域医療に熱心な医師に次々と着任して頂き常勤医も増え、平成九年四月からは院長を勤めさせて頂きましたが、大過なく勤務することができました。これも偏に皆様の御指導、御支援の賜と心から感謝しております。多くの患者さん、ご家族の皆様と共に喜び、共に悲しんできた三十三年間でした。

新町病院のスタンスとしては、地域のニーズに応えるためにまず第一に一般的な病気はわざわざ長野迄出かけてなくても院内で最初から最後まで完結することを目指し、特殊な病気や専門的な治療を必要とする場合は、その患者さんの病状に最も適した他の病院に

紹介することも、当院の大切な使命と考えてきました。これについては以前は新町病院では手に負えなかったとか、見放されたとかいったお言葉も頂きましたが、最近では、医学が進歩して各病院にはそれぞれの役割があり、どんな大病院でも全ての病気の専門的な診療が出来るわけではないことをご理解頂けるようになりました。又厚生連医療は地域に密着し地域のニーズに応えるために医療だけでなく、保健、福祉にも積極的に取り組んでおります。



ク等の保健予防活動、介護保険に対応してデイケア（通所リハビリ）訪問看護、訪問リハビリ、ケアプランの作成、療養型病床への入院等、これからも小瀬川新院長のもと、地域の皆様のお役に立てるよう心掛けて参ります。

最後に、私もこの度名誉院長という身に余る、而映いような称号を頂きましたが、一内科医として今後尚自分の間、常勤医として今迄通り診療を行い微力を尽くしたいと考えております。引き続き宜しくお願い申し上げます。



名誉院長 藤本 宗行

事務長 退任のご挨拶



四季をつうじて風光明媚なこの地、信州新町に赴任して早いもので2年がたち、私も定年を迎える年になりました。

この間地域の皆様には医療・保健・福祉等を通じ大変お世話になりました。2年間でこの地域の皆様とも知り合う機会が増えました。愛着をおぼえる頃には別れなければなりません。私にとってはなにかにつけて厳しい環境に身を置きながらも、感謝しながら生活しておられる特に高齢の皆様が忘れられません。

医療情勢も年々非常に厳しくなっておりますが、医療・保健・福祉を皆さんと共に支える新町病院は、皆さんにとり安心して暮らせる存在でなければなりません。これからも地域の皆様に支えていただき、この地域と共に病院が発展されます事を祈念し退任の挨拶とさせていただきます。

北村 久光

スタッフ紹介コーナー (リハビリテーション科)

リハビリテーション科は理学療法士3名、作業療法士1名、受け付け兼助手1名、合計5名のスタッフでリハビリテーションを行っています。

病院内では、医師の指示のもとで、外来患者様と入院患者様のリハビリテーションを理学療法室・作業療法室で行っています。また理学療法室や作業療法室へ来られない患者様はこちらから病棟へ行き、病室でのリハビリテーションを行っています。理学療法では主に関節の運動や、立つ・歩くといった運動、また電気等を使った物理療法を行っています。作業療法では食事動作など日常生活の練習や作業を通して身体の機能訓練を行ったりしています。

病院から地域に出でのリハビリテーションとしては、訪問看護ステーションから、各家庭へお邪魔してのリハビリテーションを行っています。病気などにより家から外に出られない麻痺や障害のある患者様に対して、歩行練習をはじめとする機能回復のための訓練や、家の中の環境に合ったリハビリテーションを行います。

また「デイケアみのり」でも各スタッフが交代で、ひとりひとりの利用者様の生活環境に合った、在宅での生活空間を考えながら、少しでも快適な生活を過ごしていただけるように、訓練やアドバイスをしながらリハビリテーションを行っています。

入院中は1日でも早くご家庭での生活にもどれるように、また退院してからもご家庭や地域での充実した楽しい生活を続けられるように、リハビリテーションスタッフのみでなく、他部門の病院スタッフと協力しながら、ああでもない、こうでもない話し合いながら、毎日がんばっています。今後もひとりでも多くの皆様の笑顔がみられるように、スタッフ一同努力していききたいと思います。



■新町病院外来診療担当表■

平成16年4月1日～

	月	火	水	木	金	土
内科	1診 小瀬川 2診 堺澤 3診 萩原	1診 藤本 2診 細川	1診 小瀬川 2診 細川 3診 佐藤	1診 藤本 2診 堺澤	1診 小瀬川 2診 細川 3診 佐藤	1診 佐藤
小児科	中沢	大塚	大塚	大塚	大塚	信大医師
外科	川手	山本	川手	山本	川手	山本
整形外科	岩下	藤澤	岩下	岩下	藤澤	第1・4・5 パート
婦人科	-	増沢	-	内川	-	-
耳鼻科	小林①③⑤ 工② 海沼④ 毎週午後のみ 受付午後2:00～午後4:30	-	海沼 毎週午後のみ 受付午後2:00～午後4:30	-	-	原田①④⑤ 受付午前8:30～午前11:30
脳外科	-	信大医師 (大塚) 第2・4週のみ	-	-	-	-
眼科	洗木	佐藤	窪田	片井	新井	信大医師
皮膚科	-	-	-	-	宇原	-
泌尿器科	-	-	小林	-	-	-

※外来受付時間は、耳鼻科を除き午前8時30分～午前11時30分迄です。併し、毎月第2土曜日、第3土曜日は休診です。

職員募集のお知らせ

新町病院では、以下の職員を募集しています。

- ・ 募集職種…薬剤師及び理学療法士
- ・ 募集人員…各職種とも若干名

詳しくは、新町病院人事課まで
新町病院人事課 ☎026-262-3111 (代)

人間ドック随時受付中

年に一度は、人間ドックで健康チェックしませんか？
詳しくは、健康管理センターまでどうぞ！

新町病院健康管理センター ☎026-262-3111 (代)

編集後記

さくら満開の季節を迎え、三月末で藤本院長、北村事務長が定年により退任され、四月より新たに小瀬川院長、宮崎事務長と揃って就任いたしました。職員一同、地域の皆様にご信頼される病院を目指し、さらに努めてまいります。皆様で「まゆだま」をお届けたいと思います。